「ゆずり葉」が語る地域の歴史文化（3）

ゆずり葉だより」夏第104号から、毎号に島田先生に連載（全6回）して頂いています。

ゆずり葉の歌
～宝塚市逆瀬台小学校のために～

前・逆瀬台小学校教諭　島田佳幸

ゆずり葉のうた　きこゆ　かのおかへ
手をとりて　行こう　こころ　ひらいて
かぶとやま　あおく　くさも木も　もえたつ
かのおかへ
ふかみどりの　ゆずり葉たちの　うたう
かのおかへ
うたにあわせて　手をとりて行こう
こころ　あわせて

逆瀬台小学校は、１９７７年４月１日に西山小学校より分離し開校、同年11月１日、校歌「ゆずり葉の歌」を制定し、創立記念日と定めました。作曲者の近藤幹雄（１９３０～）は、音楽教育の研究者、都留文科大学名誉教授。作詞者の斎藤喜博（きはく）（１９１１～１９８１）は、教育者、歌人。子どもの主体性を尊重し可能性を伸ばす「島小教育」を実践、１９７４年宮城教育大教授就任、翌年退職。退任後は全国の学校を巡り、教師への指導に尽力しました。喜博は、逆瀬台小学校には１９７７～１９８１年の約４年間で、13回延べ27日も訪れ、研究の指導や授業実践に当っています。

校歌作成に際し、初代校長花畠福太郎は知人を通して喜博にお願いしました。作曲者は喜博に一任の下、近藤が担当することとなりました。花畠は、「気持の重い暗い日々が続いていたときであっただけに、いっそう斎藤喜博先生の心情が身にしみてきて、体じゅうがあつくなるのを覚えた。正直なところ、これで私の仕事が開かれた。こんな幸せな学校は他にないだろうとも思った。」と述べています。そして、１９７７年６月18日、喜博と近藤を本校に招きました。

校庭から見える甲山の展望や裏山にはかつてゆずり葉が植生していたこと、「ゆずり葉台」の地名を残していること等を話しました。これに対し喜博は「よい眺めですね。詩のイメージがつくれました。学校とかの言葉を使わずにつくりますよ。」と述べました。また近藤は「お城のような感じのいいところですね。」と感想を漏らしました。同年９月３日、近藤から校歌「ゆずり葉の歌」の作曲が送られてきました。９月27・28日、教師・子ども共々に「ゆずり葉の歌」の指導を喜博に請いました。この時の様子を花畠は「校歌『ゆずり葉の歌』を教材として、斎藤喜博先生に導かれながら、自らも解釈し、解釈したものから新しい解釈や新しいものを創造していこうとする姿勢が、教師たちにも子どもたちにもつくられてきたのである。」と記しています。（次号に続く）

注）①逆小関係者については、敬称略としています。②本連載は、「地域史研究第１２０号（尼崎市立歴史博物館刊）」掲載の拙稿『校章・校歌が語る学校の歴史文化』の一部を抜粋した内容で再構成しています。詳細や執筆の参考とした資料名は、同博物館のウェブサイトにある原本を参照して下さい。

【お詫び】前回秋第１０５号の記事の中で、地図中に「業者山」の表記がありますが、正しくは「行者山」です。大変失礼いたしました。（石谷）

逆小ドラゴン活動報告

令和３年11月３日（祝）、秋晴れの空の下、宝塚武庫川ロータリークラブ主催「第16回ちびっこ野球大会」が逆瀬台小学校にて開催されました。

今年度はコロナ感染拡大で活動停止期間もあり開催が危ぶまれましたが、緊急事態宣言の解除とともに活動再開でき、無事に開催が実現しました。

本大会は３年生以下の選手が参加する大会で、市内15チーム、総勢２０９名の子供たちが元気いっぱいの歓声をあげ、熱戦を繰り広げました。

開会式

選手宣誓

開会式では逆小ドラゴン主将の藤本丈涼君（３年）が「（コロナ禍で）当たり前のことができなくなった中で野球ができることに感謝します。」「仲間と全力でやり抜くことを誓います。」と力強く選手宣誓をし、会場内に大きな拍手がわき起こりました。

逆小ドラゴンはＢブロックで戦い、決勝戦ではチーム一丸の全力プレーで【９対２】で見事勝利し、７年ぶりの優勝を果たしました。

逆小ドラゴンでは体験・見学を随時受け付けています。入学前のお子さんも参加できます。

「スポーツクラブ21ゆずり葉」逆小ドラゴン
問合わせ
ＴＥＬ０９０-９２１９-７５１６　杉野

ちびっこチーム

「白瀬川クリーンハイキング（白瀬川のゴミ拾い）」を行いました。

11月21（日）10時～11時に「白瀬川クリーンハイキング」を行いました。

久しぶりに「川のゴミ拾い」や「溝に詰まった落ち葉を清掃」し、きれいになりました。

川には、色々なゴミが捨てられています。例えば、サッカーボールが３個、菓子の空袋、レジビニール袋、タバコの吸い殻等が多数。

皆さんにお願いですみんなの白瀬川ですから、日頃から川べりを歩く時は、物を捨てないよう最低限のマナーを守りましょう。

今後も事前にお知らせしますので、是非ご参加下さい。よろしくお願いいたします。　石谷

県立宝塚高等学校　校外清掃

兵庫県立宝塚高等学校　校長　森井　裕史

本校は今年度兵庫県版コミュニティー・スクール試行校に指定され、来年度は60周年を迎えます。この機会に、本校生徒を支えてくださっている地域の方々への感謝を表すことができればと思い、10月１日（金）の放課後、美化委員の生徒10人を中心に校外清掃を行いました。

このコロナ禍のご時世では地域社会において人とのコミュニケーションを控えざるをえない状況にありますが、高校生の活動する姿が地域に活性化をもたらす一助となるよう、本校の過去の記録にあった「ゆずり葉道の清掃」に着目し復活させる動きとなった次第です。

当初、対象生徒を美化委員としていましたが、当日ボランティアとして参加した生徒もおり、受動的な姿勢ではなく能動的に活動している姿が印象的でした。

作業の途中には地域の方と挨拶を交わし、すれ違う方からは「ありがとう」という声をいただきました。初めての取り組みということもあり不思議そうに清掃する様子を眺める方もいらっしゃいましたが、この活動が根付き、県宝生の活躍できる場がまた１つ増えればと願っています。